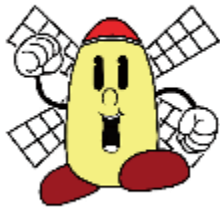


豊かな文化の担い手と思いやりのある心をはぐくむ松伏の教育



松伏町マップ

一心豊かにたくましく生きる松伏の子の育成

- 教委名 松伏町教育委員会
- 所在地 松伏町大字松伏2424番地
- TEL 048-991-1864
- E-mail kyosomu@town.matsubushi.lg.jp
- ホームページ <http://www.town.matsubushi.lg.jp/>

1 研究主題

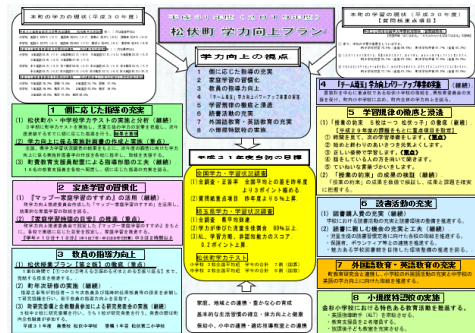
豊かな文化の担い手と思いやりのある心をはぐくむ松伏の教育
 一心豊かにたくましく生きる松伏の子の育成

2 研究の実践

(1) 学力向上に関わる取組

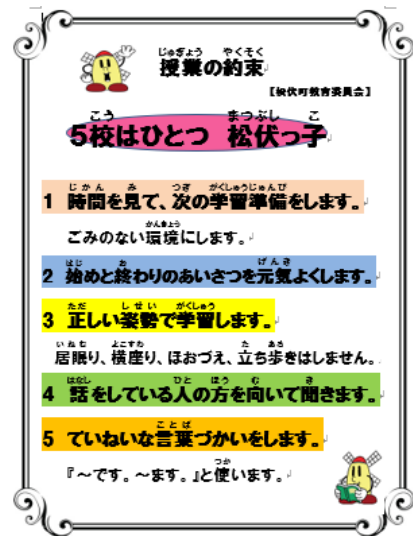
ア 松伏町学力向上プランの作成

全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査、松伏町学力テスト、児童生徒の意識調査等の分析結果をもとに、毎年度右のような「松伏学力向上プラン」を作成している。その中には、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する取組も明記している。



イ 授業の約束 5校はひとつ 松伏っ子の定着

授業の約束を作成し、小中学校の全クラスに掲示し児童生徒に意識付けを行っている。また、毎年度1月に、この内容に関する児童生徒アンケートを実施し、結果の分析を行い、次年度の重点項目を決めて、確実な定着に取り組んでいる。



ウ 松伏授業プランの徹底

1時間の授業の時間配分や流れ（つかむ、考える、深める、まとめる、振り返る）を示し、町内の研究授業や年次研修等のあらゆる機会に松伏授業プランに沿った指導・支援を行っている。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、

- ① 短く、課題解決したくなる導入の工夫
- ② 本時の課題（めあて）を板書し、児童生徒がやってみたくなる課題を提示
- ③ 主体的に課題解決できる時間を確保
- ④ 協働的な学びの時間を確保



⑤課題（めあて）に沿った学習のまとめ

⑥振り返りを文章で書くこと

以上の項目について、繰り返し指導を行っている。町内全小中学校の指導案にも、つかむ等の流れが明記されている。

平成30年12月に第2版を発行し、1単位時間で①～⑥まで完結する授業実践を推進している。

エ 松伏町小・中学校学力調査の実施

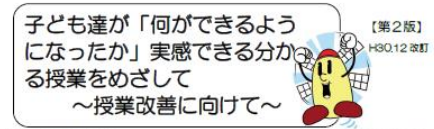
小学校1～4年生は国語と算数、小学校5・6年生は国語・算数・理科で実施。中学校1・2年生は5教科で実施。中学校3年生に対しては東部テスト1回分を補助している。学習の定着度や学力の経年変化を捉え、児童生徒への支援の手立てや教員自身の授業改善に役立っている。

オ 松伏町学力向上推進委員会の実施 (年3回の実施)

全国学力・学習状況調査、埼玉県学力・学習状況調査、松伏町小・中学校学力調査の三つの調査の実施をとおり、児童生徒の学力や学習状況を把握し、それを教育指導の充実や授業改善等に役立てるなど、教育に関する継続的なPDCAサイクルを確立する。また、各学校の学力向上の取組等を発表し、共有化を図っている。

カ 教育支援員の配置と教員の負担軽減 (教材研究の時間の確保)

町内小中学校5校に町費採用による独自の教育支援員16名（1日7.75時間、年間190日）を配置し、TTや少人数指導、習熟度別学習等に活用するなど、個に応じたきめ細かな指導を展開している。教育支援員は、授業中の支援の他に、プリントやテストの採点、教材・教具や掲示物の作成等教員の事務的な作業も担い、教員の負担軽減となっている。



松伏町の児童生徒の学力向上に向け、5校が1つとなり、共通理解・共通行動をお願いするため、平成28年度「松伏授業プラン」を作成しました。その結果、教員員の皆様の熱心なご指導により、授業の流れについては定着が図れる一方で、あらたな課題も見つかりました。次の点を意識した授業改善を図っていただき、子ども達が「何ができるようになったか」実感でき、分かる授業を実践していただきますようお願いいたします。

松伏町の授業の課題と対策

- 導入の時間が、7分を越えてしまう。まとめや振り返りまで1時間前後でできない。1時間の授業をどのように行うかイメージしてから授業に臨みましょう。
- 本時の学習の課題（めあて）やまとめが明確されない。
 - (1)この2つについては、必ず明確にし、ノートに記入させましょう。
 - (2)本時の学習でどんなまとめを書かせたいか考えて、授業に臨みましょう。
 - (3)(2)で考えたまとめをもとに、このまとめを子どもたちが発言できる学習の課題（めあて）を考えましょう。
※学習の課題（めあて）は、行動目標ではありません。疑問の課題（めあて）にする。まとめにつなぐなりやすくなります。
- 振り返りが文章で書かれていない。感想だけになってしまっている。振り返りは、子ども達が「何ができるようになったか」を自己評価し、達成感や自己肯定感の高める大切な時間です。感想だけでなく、「この時間で何ができるようになったか」も必ず文章で書かせましょう。
- 教師主体であり、子どもたち主体の授業になっていない。主体的・対話的で深い学びになるように、まずは教師の時間をできるだけ短く、できるだけ少なくしましょう。そして、子ども達が学び合う時間を多く、意図的に設定しましょう。
※グループの割合は、4人が限界といわれます。

※ 裏面 「松伏授業プラン」

様式1(小中学校) 2 全国学力・学習状況調査結果の分析

(1) 国語	学校別学力	全国平均	埼玉県	松伏町	全国との差
①全国平均正答率よりも特に割合の高かった問題					
1 四(1)イ公衆電話について調べたこと【報告する文章】の中の部イを、漢字を使って書き直す【友達にかならず】	79.0	74.7	69.4	3.9	
2 四(1)ウ公衆電話について調べたこと【報告する文章】の中の部ウを、漢字を使って書き直す【かみしんをわけてもらいたい】	49.8	49.5	35.6	14.2	
3 二(海牛)しりとりについて【知りなことを】読解するために、選んだ本の【本文の一部】から、該当ページとして適切なものを選択する	92.6	88.4	88.5	4.1	
4 三(インタビューの様子)の【に、】置換の【仕事への思いや考えに】着目して【心に】残ったこと【を書く】	69.3	67.0	68.2	1.1	
5 三(4)二つおの使い方の例として、【ノートの一部】の【に入る適切なもの】を選択する【留まり慣れよく】	73.5	72.6	73.0	0.5	
②全国平均正答率よりも特に割合の低かった問題					
1 一(公衆電話)について調べたこと【報告する文章】で【資料2】と【資料3】をそれぞれどのような目的で用いているか、適切なものを選択する	66.9	69.2	71.2	▲4.3	
2 三(公衆電話)について調べたこと【報告する文章】の【に】2 調査の内容と結果【の(1)と(2)】で分かったことをまとめて書く	19.1	27.1	28.8	▲9.7	
3 一(1)ア公衆電話について調べたこと【報告する文章】の中の部アを、漢字を使って書き直す【読者のたいしゅう】	38.5	41.1	41.9	▲3.4	
4 一(2)公衆電話について調べたこと【報告する文章】の1文を、接続語【そこで】を使って2文に分けて書き直す	42.0	47.5	47.8	▲5.8	
5 二(2)食べ物の保存についてまとめている【ノートの一部】の【に、】置換に【思ったこと】の【2】に対する答えになるように考え直す	73.9	74.8	75.9	▲2.0	
(3) 算数					
①全国平均正答率よりも特に割合の高かった問題					
1 一(1)長方形を直線で切つてできた図形の中から、台形を選ぶ	94.6	91.7	93.1	1.5	
2 二(1)1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ	95.3	95.1	95.2	0.1	
3 三(4)1800÷6は、何m分の代金を求めている式といえるのかを選ぶ	51.4	47.4	47.0	4.4	
4				0.0	
5				0.0	
②全国平均正答率よりも特に割合の低かった問題					
1 一(1)3)減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や算数の表す内容に注目して書く	35.4	41.0	43.9	▲8.5	
2 二(3)二つの棒グラフから、一人当たりの水の使用量についてわかることを選び、選んだわけを書く	45.9	52.9	52.1	▲6.2	
3 二(4)洗面と歯みがきで使う水の量を求めるために、6+0.5×2を計算する	48.6	58.8	60.1	▲11.5	
4 三(2)減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、減法の計算の仕方についてまとめたこと、どのようになるのかを書く	23.7	29.0	31.1	▲7.4	
5 三(3)被除数と除数にかける数や割る数を選び、600÷15を計算しやすい式にして計算する	69.3	72.5	74.9	▲5.6	



(2) 教職員の資質向上に向けた取組

ア 指導主事の学校訪問による支援

1年次から3年次の教職員及び臨時的任用教職員は全員、4年次から9年次の教職員は希望者に対し、年次研修を実施している。「松伏授業プラン」の実現を基本とした授業改善、基礎・基本の徹底、学力の向上の視点に立った学習指導方法や学習規律・生徒指導等についての支援・助言の機会としている。また、校内授業研究会や校内研修等においても支援・助言を行っている。

イ 授業力向上の推進

本町では、年次研修の指導者として町内の各小・中学校から推薦していただいた中堅、ベテラン教員を積極的に活用している。指導方法の継承や若手教員の授業改善などにつなげている。また、指導に当たる教員も刺激を受け、自身の授業改善へとつながることができる取組となっている。

ウ 町委嘱による研究の推進

町内5校の学校に対し、順番に2年間の研究委嘱をし、学校課題研究の推進を支援している。委嘱2年目には、町内の全教職員が参加のもとに研究発表会を行うことで、研修を深めるとともに、小中連携を図る機会となっている。

エ 松伏町教育研究会への支援

教職員で組織された研究会に対し、補助金を交付している。各教科部会、各領域部会では、校種を越えての授業研究会や研究協議が行われている。本町の小中連携を推進する大切な組織となっている。

(3) 滑らかな学校間接続に関わる取組

ア 保幼小連携の充実

- ① 保幼小連携授業研究会・連絡協議会を実施(年3回)
 - ・1学期：小学校1年生の授業を参観
 - ・2学期：幼児教育施設(幼稚園・保育園等)の授業を参観

令和元年度 松伏町教育委員会 教職員年次研修 ～指導資料～



すべての児童生徒が「分かった」「できた」と実感でき、教師・児童生徒が達成感のある学級・授業づくりをめざして!

3. 分かる授業づくりのポイント【松伏授業プランの活用】

※教師が一番の勝負をするところは「授業」である。
(部活や行事ではない)

- 【ポイント0】 教材研究をしっかり行う。
→学習内容を明確にする。児童生徒の反応を予測する。授業の計画等を段階に決す。
- 【ポイント1】 必要感のある課題を設定する。
→問いを引き出す工夫をする。問いを課題につなげる発問をする。まとめから逆算した課題を設定する。
- 【ポイント2】 解決の見通しを持たせる。
→方法・考えの見通しを持たせる。調べる・考える視点を持たせる。学習の流れを提示する。
- 【ポイント3】 全ての児童生徒に考えを持たせる。
→補助プリントを活用する。理解の悪い児童生徒への支援をする(但し教えずない)。補講簿と赤ペンをもっての個別指導をする(意図的・計画的に)。自分の考えを伝えられるように準備する。
- 【ポイント4】 言語活動(協働の学び)を充実させる。
→ペア・グループでの話し合い、ホワイトボード・付箋の活用を図る。児童生徒の言葉による説明をさせる。言語活動を入れる意味や価値を教師がもつ。
- 【ポイント5】 やる気を引き出す発問をする。
→安心して問提えられるよう、自由に発言できる学級の雰囲気をつくる。教師の切り返しを工夫する。一部の子どものための話し合いにならない。教師の意図は必要最低限(教師は、児童が主体的に学習できるコーディネーターに)。
- 【ポイント6】 まとめと振り返りを行い、学習内容を定着させる(P12)。
→児童・生徒の言葉を使ってまとめを行う。自分の学び(何が分かったか、何ができたか、今後どうするか等)を自分のことばによる文章で振り返ることができる時間を与える。通用問題を先行し定着の見届けをする。
- 【ポイント7】 1時間の思考が見える板書をやる(P13)。
→板書掲示等を活用し板書の「型」を意識する。ノート指導(文字の丁寧さ、正確さ)を意識する。



- ・ 3 学期：1 年間の反省、次年度に向けて
- ② スタートカリキュラム作成委員会の実施（年 1 回）
町独自のスタートカリキュラムを考案し、平成 24 年度から実施をしている。よりよい接続にするため毎年度改善を図っている。
- ③ 交流会の実施（年 1 回）
卒園する保育園児や幼稚園児を小学校に招き、小学生と一緒に 1 年生の教室を使用して勉強をしたり、レクリエーションを行ったりしている。

イ 小中連携の充実

- ① 児童生徒の交流事業
 - ・ 中学校へのガイダンスを、中学生が企画、運営、実施。
 - ・ 小学校夏季学習会へ中学生がボランティアとして参加。
 - ・ 町内小・中音楽会（合唱）の実施。
- ② 教職員間の連携事業
 - ・ 学校公開週間における小中間の訪問、授業参観や出前授業や情報交換会の実施。
 - ・ 合同夏季研修会の実施。
9 年間を見越した教科指導の円滑な接続について協議し、その結果を実践している。
 - ・ 松伏町教育研究会での授業研究会、研究協議の実施。

3 成果と課題

本町の最重要課題は、学力の向上である。学力を向上させるには、本町の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進していくことが最も大切なことであると考えている。そのため、町教育委員会作成の「松伏授業プラン」を学校訪問等で積極的に推進してきた。結果として、授業計画を見直し、児童生徒の話合い活動を効果的に取り入れるなど主体的な授業実践へとつながってきた。

今後も、本町の児童生徒の状況、教員の状況を的確に把握し、必要に応じて授業改善へとつながる支援や指導を行いながら、未来の松伏町を支える心豊かでたくましい児童生徒の育成を、目指していきたい。

また、各校の授業実践を家庭や地域に積極的に発信し、保護者や地域人材等を活用・連携しながら推進していきたいと考えている。

